

【河川】雄物川圏域の減災対策協議会

令和4年度 雄物川危機管理演習を開催しました！

令和 4年11月 8日
湯沢河川国道事務所

1. 概要

- 危機管理演習は、雄物川圏域の減災対策協議会における「雄物川の減災に係る取り組み方針」に基づき、大規模氾濫を想定し、ロールプレイング方式により行いました。
- 本演習は、今後の大規模氾濫時への備えとして、河川管理者と自治体が協力して作成した”避難指示等の発令に着目したタイムライン”の検証・改善および防災対応行動の確認・習熟を目的とし、今回は横手市と湯沢河川国道事務所が合同で実施しました。

2. 開催日時・会場・スケジュール

- 日時：令和4年11月8日(火)
- 会場：湯沢河川国道事務所および横手市役所条里北庁舎
- 参加者：横手市、秋田市、大仙市、仙北市、美郷町、東成瀬村、秋田地方気象台、秋田県平鹿地域振興局、JR東日本秋田支社、防災エキスパート、湯沢河川国道事務所 約90名参加
- スケジュール：

1. 開会・挨拶(湯沢河川国道事務所 目黒所長)	12:30～12:35
2. 演習直前説明、初期情報の確認	12:35～13:00
3. ロールプレイング型図上演習	13:00～16:00
4. 演習後の意見交換会・講評	16:20～17:10
5. 閉会・挨拶(横手市 石山副市長)	17:10～17:15

3. 主要演習項目(※特に本演習で着目した項目)

- 迅速かつ適切な情報収集・分析
※関係機関等への情報連絡
- 的確な状況判断(夜間の急激な水位上昇に対する避難情報発令等)
※河川管理者から自治体に対する情報の提供・解説
※災害対策用機械による減災対応
- 大規模洪水における行政担当者の住民への情報伝達
※住民への避難に関する効果的な広報、情報伝達
- 浸水想定区域における適切な避難誘導
※浸水想定区域の把握
- 河川管理者と流域自治体の緊密な連携

4. 演習場面

- 演習想定日時は、大型台風の北上に伴い横手市周辺に大雨をもたらす気象状況の中、「2023年10月9日3時演習開始」とし、雄物川及び横手川等が夜間に急激に水位上昇する設定とした。
- 被災想定は、国で管理する雄物川の堤防漏水や越水のほか、県で管理する大納川からの氾濫、横手市内における土砂災害や内水被害などを想定とし、大規模氾濫が続く想定とした。

5. 演習状況



横手市役所演習会場



湯沢河川国道事務所演習会場



ホットラインによる情報提供

リエゾンによる情報共有

6. 演習に対する感想等



目黒所長挨拶

- ・ロールプレイング方式の演習は、プレーヤー側は情報が無い状態で考えながら状況判断する訓練方式です。各自のスキルアップに努めて頂きたいと考えております。
- ・また、タイムライン改善も目指していますので、終わった後に気づいた部分の意見を忌憚なく出し合いブラッシュアップし、よりよいものとしていきたい。

意見交換会での意見・講評

- ・被害状況、災害報告、活動報告、ライフライン等の様々な情報が殺到する中で、まとめたり集約したり、漏れがないようにメモを残す、受理票を書く等、すごく大変で難しいと感じた。
- ・様々な状況が経過していく中で、正確な情報を元に適切な指示を出すことが正確に出来なかった面もあった。
- ・洪水予報システムが機能しない場面もあったが、洪水時にもシステムダウン等が考えられるため、バックアップ対応の検討が必要である。
- ・必要最低限の人数での対応、職員異動後での対応等、人材育成を今後も考えながら対応が必要である。



石山副市長挨拶

- ・ホットラインについては、堤防からの溢水、あるいは漏水等々の情報が提供され、避難判断の一つとして、非常に意義あるものだと改めて確認できた。
- ・いかなるところでいかなる災害が発生するか分からないため、引き続き国土交通省と連携を深め、予測水位等をしっかりと捉えた上で、避難判断に繋げていきたい。